

校外学習の意義について

校長 加藤 憲司

11月も終盤を迎え、冬の到来をいっそう間近に感じます。都内のインフルエンザは「流行警報」が発表されるなど、インフルエンザの流行が拡大しています。11月に警報が発表されるのは2009年以来、16年ぶりとのことで、引き続き学校においては、感染予防対策を徹底するとともに、ご家庭におかれましては、お子さんの体調には十分に注意をしていただきますようお願いいたします。

さて、11月は、1年生は生活科見学、2年生は「町たんけん」、3年生は秋の清掃活動、4年生は社会科見学、5年生は連合音楽会、6年生は連合運動会と、校外で学習する機会が多くありました。今回は、校外学習にはどのような意義があるのかを紹介します。

実体験を通じた学びを深める

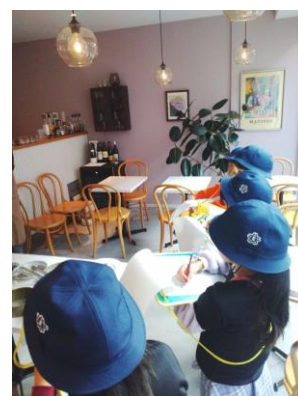
校外学習は、教室の中では得られない実際の体験を通じて行う学習です。1年生の生活科見学では、足立区生物園の見学や元荏江公園での秋探しをしました。実際に多くの動物や昆虫などを観察したり、公園で落ち葉やドングリなどを見つけたりすることで、生き物に関心をもつとともに、季節の変化を体験を通して気付くことで学びが深まりました。また、4年生の社会科見学では、中央清掃工場や中央防波堤の見学・体験活動を通して、教科書で学んだ知識が実際の社会でどのように機能しているかを実感することで、自分たちでできるゴミを減らす行動を考えるなど、より深く理解することにつながりました。さらに、このような学びは子供たちの好奇心を刺激し、さらに学びたいという意欲にもつながっていきます。



生活科見学(1年)



社会科見学(4年)



町たんけん(2年)

自主性や社会性の育成

校外学習では、友達と協力して行動することが求められます。そのことにより、コミュニケーション能力や電車の乗り方など集団行動のマナーを学び、社会性を養う機会にもなっています。

また、2年生の「町たんけん」では、班ごとにリーダーを中心として、お店の方にとどのようなインタビューを行えばよいかを、自分たちで考え、計画を立て、実行する経験を通じて、自主的な態度を育むことにつながっています。また、地域の方と触れ合う機会をもつことで、あいさつの仕方や礼儀など社会生活に必要なマナーの習得にもつながっています。

6年生の連合運動会では、各児童が自ら目標を立て、事前練習を行い、当日、競技を行うことで達成感を味わい自己肯定感を高めました。特に今年は、男女ともにリレーで1位をとり、その他個人種目でも多くの入賞者が出るなど、学年の連帯感が高まりました。また、他校の児童とのコミュニケーション能力や協調性も身に付けています。

自然や文化の理解、地域との連携

校外学習は、地域の文化や連携などを学ぶよい機会となっています。3年生の秋の清掃活動では、友達と協力してごみを集めました。本校では「ピカクリン活動」も定期的に行っていますが、自分たちが暮らす地域に関心を持ち、地域に対する愛着を育てていく活動となっています。